

令和3年度 学校評価中間報告

1 教育活動

石川県立医王特別支援学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	判定基準	分析(結果と課題及び改善策等)
(1) 生きる力の育成	① 主体的・対話的で深い学びの充実	小中高	授業に自ら取り組み、授業内容を理解できたとする児童生徒の割合は A: 80%以上 B: 60%以上 C: 50%以上 D: 50%未満	中学部 AB組 2名 A: 1名 B: 1名 C: 0名 D: 0名 AB評価で100%	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果: A 成果と課題: 児童生徒は概ね前向きに授業に取り組み、授業内容を理解している様子が見られた。児童生徒の学習の状況を把握して授業に臨むとともに、引き続き前向きに取り組めるように主体的・対話的で深い学びを意識した授業の工夫に取り組んでいく必要がある。 改善策等: 今後も教材研究を行い、授業改善を図っていく。
		病棟訪問教育	ICT機器を活用した教材の工夫と充実とコミュニケーションに配慮した指導・支援を行い、指導・支援の改善が見られたと考える教員の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	病棟訪問教育担当教員 9名 指導・支援の改善が見られた: 9名 (100%) 見られなかった: 0名	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果: A 成果と課題: タブレット用インターフェースとビックマック、棒スイッチ、紐スイッチ、ピエゾセンサースイッチなどそれぞれの児童生徒に適した支援機器を組み合わせ取り組んでいる。不随意の動きや、誤作動、スイッチがうまく入力しないことがある。 改善策等: 児童生徒の様子をきめ細かく観察し、繰り返し行動の意味づけをしながら取り組みを継続する。使用前に機材を点検し、使い方に習熟しておく。それぞれの取り組みの情報交換を行うことで改善点などを共有する。
(2) 教員の専門性の向上及び働き方の工夫	① 授業力向上・教材・教具の工夫と効果的な活用	教務課	ICT機器を始めとした教材・教具等を活用して授業を行い、授業目標の達成につながることができた教員の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	授業目標の達成につながることができた: 10名 (100%) できなかった: 0名	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果: A 成果と課題: 新しく配布された児童生徒用タブレット端末を使い、ビデオ会議アプリ zoomでの病室と病室、病室と本校をつないで同時双方型授業や授業参観などに取り組んだ。今後は google meet や共有ドライブの効果的な活用についてなども研鑽を積みたい。 改善策等: 教育センターの担当者などを講師に招いての職員研修や学習会を開く。
		教務課	病種理解のための校内研修会を受け、児童生徒への対応や指導に活かすことができた教員の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	指導に活かすことができた 10名 (100%) できなかった: 0名	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果: A 成果と課題: 第1回公開校内研修会や事例検討会等を受けて児童生徒への対応や指導に活かすことができた。内容の一層の充実を図ることが必要である。 改善策等: 2学期には第2回公開校内研修会を予定しており、重度重複の児童生徒の対応や指導に活かすことができる研修会を行う予定である。
		教頭	取り組み目標を決めて実践したことにより、業務改善や勤務時間を意識した校務処理ができた教員の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	業務改善や勤務時間を意識した校務処理ができた: 8名 (80%) できなかった: 2名 (20%)	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果: A 成果と課題: 個人の取り組みとともに勤務時間外の留守電対応、最終退校時間の設定を並行して行うことで成果が見られた。例年より少ない人数の職員配置となり、効率化できるところを模索しながら進めているが、今後も効率化を意識した取り組みが必要である。 改善策等: 個人の取り組み目標を継続するとともに、次年度に向けての校内組織についても検討を進めていく。

(3)	安心安全な学校作り	①	コロナ対応を含めた学校行事の柔軟な企画・運営	指導課 小中高 病棟訪 問教育	学校行事や学部行事について、病院と連携しながらコロナ対応を含めた安心安全な方法について検討・企画し、実施することができた教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	できた：10人 (100%) できなかった：0人	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：A 成果と課題：学校行事としての医王のつどい（ミニ運動会）は病院と検討を重ねながら代替活動として実施することができた。今後の行事についてもコロナ対応をしながら、検討・企画を進めている。 改善策等：病院のコロナ感染症の対応状況を踏まえた上で、新しい視点で児童生徒が安全に楽しめる行事の運営方法を検討していく必要がある。また病院と連携を深めながら、常に複数の実施案について検討しておく。
		②	安全防災対策の充実	指導課	安全防災に関する授業や研修等を受け、訓練において実際に判断し行動できると考えた児童生徒・教職員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	中学部AB組2名 できる：2名 (100%) 教員 できる：10名 (100%)	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：A 成果と課題：生徒は訓練の事前事後学習で自分が取るべき行動を理解し、行動できると思うと回答した。教職員に対しても学校の立地条件等を含めた本校の現状に応じた安全防災に関する研修等を実施し、理解を深めた結果の回答である。 改善策等：近年の災害等の増加に伴い、実際の非常時にも対応できるように訓練・研修の内容を工夫していく。
(4)	保護者、病院、地域との連携	①	教育活動への理解のための広報活動の推進	総務課	学校だよりやホームページ等により、学校における新しい情報を得ることができたと回答した保護者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A：10人(83%) B：1人(8%) C：1人(8%) D：0人 AB評価で92%	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：A 成果と課題：ホームページの更新は担当以外の教員もできるようにし、行事の記事やお知らせなどすぐに掲載できるようにした。また保護者教職員向けの一斉配信メールを活用し、緊急の連絡を配信できるような体制が整った。今後も内容の一層の充実を図る。 改善策等：教育活動についてのタイムリーな情報発信ができるようにする。

2 センターの機能

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	判定基準	備考
(1) 小中高等学校・特別支援学校・関係機関との連携	① 教育機関・他機関との連携	コーディネーター、専門相談員	電話やメール等で連絡を取り合う機会が各学校 A：3回以上あった B：2回あった C：1回あった D：なかった	専門相談員回答 C：1回あった	C、Dの場合は、工夫改善を図る。	結果：C 成果と課題：夏季休業中に県内小中学校病弱・身体虚弱特別支援学級担当者に電話連絡をし情報交換等を行うことができた。担当者が毎年変わる学校が多く、継続して繋がりを深めていくことが難しい。 改善策等：2学期以降も電話等で連絡を取り合い、継続して関わりを持つことで繋がりをもち続けていく。
	② 小中高等学校・特別支援学校等への情報提供	教務課	講演会・研修会の内容が参考になったと回答した外部参加者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	外部参加者回答 7名 A：5名(71%) B：2名(29%) C：0名 D：0名	C、Dの場合は、工夫改善を図る。	結果：A 成果と課題：第1回公開校内研修会で外部講師による講演会を実施し、参加者の評価は好評であった。参加者の学校種に応じた内容を求められた場合、学校種が様々で、テーマの選定が難しい。 改善策等：第2回公開校内研修会が予定されており、講師と打ち合わせを行いながらよりよい研修会にしたい。
(2) 前籍校・病院等との連携	① 児童生徒に即した支援の充実	小中高	前籍校や病院等と連携し、個々に合わせた支援を行うことができた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	中学部AB担任1名 できた	C、Dの場合は、工夫改善を図る。	結果：A 成果と課題：前籍校や病院等と話し合いを持ち、個々の課題に応じた支援を行うことができた。引継ぎの際には、病院も交え指導・支援についてより具体的なことまで引継ぎしていく必要がある。 改善策等：児童生徒の実態に応じて、前籍校や病院、保護者と連携をもち続ける。

